



健康事業団だより



平成 30 年 1 月 24 日、セントヒル長崎において「平成 29 年度労働衛生管理等に関する健康診断担当者研修会」を開催しました。今回 4 回目の開催で、約 60 名のご参加をいただきました。お忙しい中、ご参加いただいた皆様にこの場をお借りして、お礼申し上げます。

平成 29 年度

労働衛生管理等に関する健康診断担当者研修会プログラム

1) 主催者挨拶

2) 職場におけるがん検診について

公益財団法人 日本対がん協会 小西 宏様

3) 定期健康診断等における診断項目の取扱いについて

独立行政法人 労働者健康安全機構 産業保健総合支援センター
副所長 樽見 啓介様

4) 長崎県健康事業団 保健師より

- ・平成 30 年度からの定期健康診断に関する変更点について
- ・オプション検査について

5) 質疑応答



常務理事挨拶



公益財団法人 日本対がん協会 小西 宏様より「職場におけるがん検診について」と題して、ご講演いただきました。

厚生労働省のがん検診のあり方に関する検討会の動向や職場におけるがん検診マニュアル(案)についての解説と精度管理に関してわかりやすくご説明いただきました。

独立行政法人 労働者健康安全機構 産業保健総合支援センター副所長 樽見 啓介様より「定期健康診断等における診断項目の取扱い」と題して、厚生労働省の資料をもとに、定期健康診断の項目と省略基準についてご説明いただきました。



長崎県健康事業団 保健師より、平成 30 年度からの定期健康診断に関する変更点と題して、受診票や検査項目についてご説明させていただきました。

また、定期健康診断への追加項目として、大腸がん検診やクレアチニン検査などをお勧めさせていただきました。

(あらためて、裏面で説明させていただきます。)

検診で早期に見つけよう「大腸がん」

長崎県において大腸がんにかかった人数は、30年前に比べて3倍以上にのぼります。他のがんも増加傾向にありますが、特に大腸がんは急増しています!!

大腸がんは、「検診で発見されたがん(検診発見癌)」と「症状があつてから発見されたがん(非検診発見癌)」の5年相対生存率を比較すると「検診で発見されたがん(検診発見癌)」のほうが生存率が高いことがわかりました。

定期的(年1回)に検診を受けることが大切です。

大腸がん検診の流れ

- ①1日1本、2日間、専用の採便容器に便をとります。
※便をとりすぎると、正しい検査ができません。
- ②冷暗所に保存しておきます。
- ③定期健康診断当日に提出します。



おすすめの追加検査項目!!

平成28年度健康事業団で実施した追加検査項目実施件数ベスト3について紹介します。

1位「尿酸(UA)」

細胞が分解された後にできる老廃物で、通常は尿中に排泄されますが、腎臓機能が低下したり、プリン体を多く含む食品を摂り過ぎたりすると、血液中に増加します。尿酸値の高い状態が続くと、足の親指の関節などに、激痛を伴う痛風発作を引き起こします。▲高値・・・高尿酸血症(痛風)、腎不全など

2位「白血球数(WBC)」

体内に入ってくるウイルスや細菌を撃退する働きをします。白血球が増えるということは、体のどこかに炎症や病気があることを示します。▲高値・・・細菌感染、心筋梗塞、白血病など ▼低値・・・悪性貧血、再生不良性貧血、敗血症など

3位「クレアチニン(CRE)」

老廃物の一種で、腎機能が低下すると血液中の値が増加します。慢性腎臓病(CKD)の早期発見に有効です。平成30年度より、労安法に基づく定期健康診断等で「医師が必要と認めた場合に実施できる項目」になりました。

～慢性腎臓病(CKD)～

患者数は増加傾向にあり、日本では成人の8人に1人いると考えられ、新たな国民病ともいわれています。初期には自覚症状はほとんどありません。進行とともに症状(体のむくみ・倦怠感・貧血・夜間頻尿など)が出現、さらに人工透析が必要な状態へ至ります。早期発見にはクレアチニン・eGFRなどの検査が有効です。

「eGFR」は腎臓が老廃物を排泄する能力を調べる検査で、クレアチニン値や年齢・性別から算出できます。

★上記以外にも追加できる検査はあります。

お問い合わせ・お申込みは、**健診事業課**まで



公益財団法人 長崎県健康事業団

〒859-0401 諫早市多良見町化屋 986-3

TEL 0957-43-7131 (代表) FAX 0957-43-7139

<http://www.npmhc.jp>